

Pioneer

ドライブレコーダー

VREC-DZ800DC

取扱説明書

車への取り付けは、必ずこの取扱説明書の「安全上のご注意」に従って正しく行ってください。指定以外の取り付け方法や指定以外の部品を使用すると、事故やけがの原因となる場合があります。この場合は、弊社では一切の責任を負いかねます。

販売店様へ
取り付け作業が完了しましたら、この取扱説明書はお客様へお渡しください。
免責事項について
お客様または第三者が、この製品の誤使用、使用中に生じた故障、その他の不具合またはこの製品の使用によって受けられた損害については、弊社は一切の責任を負いません。

<下記窓口へのお問い合わせ時のご注意>
「0120」で始まる電話番号は、携帯電話・PHS一部のIP電話などからは、ご使用になれません。携帯電話・PHSからは、ナビダイヤル、またはIP電話をご利用下さい。(通話料がかかります) 正確なご相談対応のために折り返しお電話をさせていただいておりますので発信番号の通知にご協力いただけますようお願いいたします。

カスタマーサポートセンター

※記載内容は、予告なく変更させていただくことがありますのでお客様サポートサイトも活用ください。

■お客様サポートサイト
<https://pioneer.jp/rd/support/>

■商品についてのよくあるお問い合わせ(FAQ)
<https://pioneer.jp/rd/support/faq/>

■電話
《カーオーディオ、カーナビゲーション商品》※受付時間はお客様サポートサイトでご確認ください
【固定電話から】0120-944-111(無料) 【携帯電話・PHSから】050-3820-7540(IP電話・有料)
または 0570-037-600(ナビダイヤル・有料)
※カーナビゲーションの訪問宅電話番号検索機能に関する個人情報の削除などはこちらの窓口で承っております

■ファックス 0570-037-602(ナビダイヤル・有料)

修理受付窓口

■修理受付サイト
受付時間、よくあるお問い合わせなどはホームページをご確認ください
<https://pioneer.jp/rd/support/purpose/repair/>

■電話
【固定電話から】0120-5-81028(無料) 【携帯電話・PHSから】050-3820-7550(IP電話・有料)
または 0570-037-610(ナビダイヤル・有料)

■ファックス 0120-5-81029(無料)

令和2年10月現在 記載内容は、予告なく変更させていただくことがありますので予めご了承ください。 VOL.10

パイオニア株式会社 〒113-0021 東京都文京区本駒込2-28-8 文京グリーンコート < KYT2221 > < 1601007-1444-0 >

carrozzeria

安全上のご注意 (安全にお使いいただくために必ずお守りください)

あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、必ずお守りいただくことを説明しています。

■ 表示内容を無視して、誤った使いかたをしたときにおよぼす危害や損害の程度を次の表示で区分し、説明しています。

	警告	「人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容」です。
	注意	「人が軽傷を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容」です。

■ お守りいただく内容の種類を次の絵表示で区分し、説明しています。

	注意(警告を含む)しなければならない内容です。		必ず行っていただく強制の内容です。
	禁止(やってはいけないこと)の内容です。		

DR-005-001*

接続・取り付け

警告

エアバッグの動作を妨げる場所には、取り付けや配線をしてはいけない
エアバッグが動作しなかったり、動作したエアバッグで製品や部品が飛ばされ死亡事故の原因になります。車両メーカーに作業上の注意事項を確認してから作業を行ってください。

取り付けやアース配線に、保安部品(ステアリング、ブレーキ、タンクなど)のボルトやナットを使用しない
制御不能や発火、交通事故の原因となります。視界や運転操作を妨げる場所、同乗者に危険を及ぼす場所には取り付けない
交通事故やケガの原因となります。

電源コードの被覆を切って、ほかの機器の電源を取らない
電源コードの電流容量がオーバーすると、火災や感電、故障の原因となります。

本機は、保安基準に適合しない場所に貼り付けたり、再貼り付けや汎用の両面テープで貼り付けたりしない
視界不良や本機がはがれて、事故の原因となります。

車両メーカーが指定する禁止エリアや車両の操作を妨げる位置に、取り付けや配線をしてはいけない
カメラ装置などの動作を妨げるおそれがあり、交通事故の原因となります。車両メーカー、カーディーラーに注意事項を確認してから作業を行ってください。

DC24V車では使用しない
本機はDC12V㊄アース車専用です。DC24V車で使用すると火災や故障の原因になります。

取付・取外し・配線は、専門技術者に依頼する
誤った取り付けや配線、取り外しを行うと、車に支障をきたす場合があります。また、お客様ご自身による取付・配線はケガの原因となりますので、販売店などにご依頼ください。

説明書に従って接続・取り付ける
説明書に従わずに接続・取り付けを行うと、火災や故障の原因となります。

コード類を引き回すときはしっかりと固定する
コードを固定する付属部品または市販部品を使用してください。ステアリングやセレクトレバー、ブレーキペダルなどに巻きつくと、運転操作を妨げ事故の原因となります。また、乳幼児の首などに巻きつく危険があります。

パイプ類、タンク、電気配線などの位置を確認し、干渉しないように取り付け
穴あけドリル等がパイプ類、タンク、電気配線などと干渉すると、火災、故障の原因となります。

付属の部品を使用し、固定する
付属の部品以外を使用すると、機器内部の部品を損傷したり、しっかりと固定できず外れて運転の妨げになり、事故やケガの原因となります。

取り付けと配線が終わったら、車の電装品が正常に動作するか確認する
正常に動作しない状態で使用すると、火災や感電、交通事故の原因となります。

車体やネジ部分、シートレールなどの可動部にコードを挟み込まないように配線する
断線やショートにより、火災や感電、故障の原因となります。

取り付け場所の汚れ(ごみ、ほこり、油)などを取り除き、しっかりと取り付ける
走行中に外れ、交通事故やケガの原因となります。乗車時に取り付け状態(接着やねじのゆるみなど)を点検してください。

注意

本機を不安定なところに取り付けない
落下などによる事故やケガ、故障の原因となります。

コード類は途中で切断しない
コード類にはヒューズがついている場合があるため、保護回路が動かなくなり、火災の原因となります。

コード類の配線は、車体の高温部・金属部・可動部に接触させない
断線やショートによる火災や感電の原因となります。

ヒーターの吹き出し口の近くに設置しない
製品の通風口、放熱板を塞ぐ場所には設置しない

熱風が直接当たったり、放熱が不十分となり、内部温度が上昇し、火災や事故の原因となります。

水のかかるところや結露、ほこり、油煙の多いところに取り付けない
発煙や発火、故障の原因となります。

使用方法

警告

本機はリチウム二次電池を内蔵しています
・液体で濡らさない
・分解しない
・指定以外の方法で充電しない
・火の中へ投入、加熱をしない
発熱・発火・破裂の原因となります。

内蔵電池に強い衝撃を加えない
変形、保護機構が破損する可能性があり、発熱、破裂、発火の原因となります。

画面だけを見ながらの運転はしない
必ず目視による安全確認を行いながら運転してください。距離感の違いとカメラの死角により人や物にぶつかるおそれがあり、思わぬ事故の原因となります。

大きな音量で使用しない
警告音など車外の音が聞こえない状態で運転すると、交通事故の原因となります。

電池・ネジなどの小物部品は乳幼児の手の届くところに置かない
誤って飲み込んだ場合は、ただちに医師に相談してください。

液体で濡らさない
発煙、発火、感電の原因となります。

分解や改造をしない
交通事故や火災、感電の原因となります。

分解禁止

ぶら下がったり、押ししたり引っ張ったりして、力を加えたりしない
ケガや車両の変形および故障の原因となります。

液漏れした電池には直接触らない
ケガや周囲を汚染する原因となります。万が一皮膚や衣服に付着した時は、きれいな水で洗い流してください。目に入った時は、きれいな水で洗ったあと、ただちに医師に相談してください

画面が映らない、音が出ない、音声が割れる、歪むなどの異常・故障状態で使用しない
思わぬ事故や火災、感電の原因となります。

実際の交通規制に従って走行する
ルート案内が実際の交通規制に反している場合があり、交通事故の原因となります。

ヒューズを交換するときは、規定容量(アンペア)のヒューズを使用する
規定容量を超えるヒューズを使用すると、火災や故障の原因となります。

フロントガラスに貼り付ける機器等は、車を止めてから操作する
無理な姿勢で操作すると運転操作を誤り事故の原因となります。

注意

本機は自動車用途以外で使用しない
発煙や発火、感電やケガの原因となります。
本機の上に重いものを乗せたり、乗ったりしない
落下させる、たたくなど、強い衝撃を与えない
故障や火災の原因となります。

キャッシュカードなどを本機に近づけない
磁気データが消去されることがあります。

本機をフロントガラスと専用サンシェード等の間に挟み込まない
熱がこもり、本機の変形や故障の原因となることがあります。
駐車監視機能使用時にサンシェードを使用する場合は、ドライブレコーダー部分を切り取るなど加工を行ってください。

運転者は運転中に画像を注視しない
前方不注意となり交通事故の原因となります。

車両から乗り降りするときなどは、製品に頭部をぶつけないように注意する
ケガの原因となります。

温度の上昇に注意する
本機は、環境や使用状況によって温度が上昇する場合があります。素手で触る場合などケガや事故の原因となることがありますので、ご注意ください。

異常時の問い合わせ

警告

万一異常が起きた場合は、直ちに使用を中止し、必ず販売店かサービス相談窓口にご相談する
そのまま使用すると、思わぬ事故や火災、感電の原因となります。どのようなタイミングまたは操作した場合に、その異常事象が発生したかの詳細情報をできる限り販売店かサービス相談窓口にお伝えください。

保証書とアフターサービス

保証書

保証書は、ご購入年月日、販売店名などが記入されていることをお確かめの上、ご購入の際に販売店より受け取ってください。保証書に記入もれがあったり、保証書を紛失したりすると、保証期間中でも保証が無効となります。記載内容をよくお読みの上、大切に保管してください。

この製品の保証期間は、お買い上げの日より 1 年間です。

保証期間

修理について

本機は持ち込み商品のため出張修理は承っておりません。引き取り修理サービスをご利用ください。(お車から取り外していただいた状態での引き取りとなります。また送料はお客様ご負担となります。)

保証期間中の修理

について

万一、故障が生じたときは、保証書に記載されている弊社保証規定に基づき修理いたします。お買い上げの販売店または修理受付窓口にご連絡ください。

連絡先については、弊社ホームページをご覧ください。

保証期間経過後の



修理について

お買い上げの販売店または修理受付窓口にご相談ください。修理すれば使用できる製品については、ご希望により有償で修理いたします。尚、生産終了により補修用性能部品の調達や修理後の性能保証などの事情から修理できない場合があります。あらかじめご了承ください。弊社修理拠点へのお持ち込みは、製品をお車から取り外した状態で、弊社修理拠点へのお持ち込みは、製品をお車から取り外した状態で、販売店、または取付店にご相談ください。

ご質問、ご相談は

本機に関するご質問、ご相談はパイオニアカスタマーサポートセンターまたはお買い上げの販売店にお問い合わせください。

本書の見かた


表記	意味
 	取り扱いで注意していただきたいことや、本機の性能を維持するうえで注意していただきたいことについて、説明しています。
メモ	操作する上でのヒントや、機能に関する補足について説明しています。
[○○]	画面に表示される選択項目を表します。
→ [○○○○]	参照していただきたい箇所や設定項目を表します。

- 本書で使っているイラストや画面例は、実際の製品と異なることがあります。
- 実際の製品の画面は、性能・機能改善のため、予告なく変更することがあります。
- 本書では、microSDHC/SDXC メモリーカードを、便宜上「microSD カード」と表記しています。

使用上のご注意

⚠ 本機取り扱いに関するご注意

- 運転者は走行中に再生操作や設定操作などしないでください。前方不注意となり交通事故の原因となります。必ず安全な場所に停車してから操作してください。
- ドライブレコーダーの各機能は、設定・設置状況・microSD カードの状態・走行環境(路面状況など)の影響により、正しく作動しない場合があります。

	連続録画ファイル保存領域
	イベント録画ファイル保存領域
	駐車監視録画ファイル保存領域
	写真ファイル保存領域

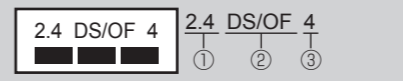
- ダッシュボード上に明るい色のものを置くと、フロントガラスに反射してカメラ映像に映り込む場合があります。ダッシュボード上には明るい色のものを置かないでください。
- 本機は事故の証拠として、効力を保証するものではありません。
- 本機は全ての状況において映像の記録を保証するものではありません。
- 本機で撮影できる範囲(→「仕様」)には限界があります。予め記録される映像で確認の上で使用ください。
- 60℃以上の高温または-10℃以下の低温、および湿度の高い場所では本機の電源をオフし、使用しないでください。
- 本機で撮影した映像を取り扱う際は、被写体のプライバシーなどを侵害しないよう十分にご配慮ください。また、お客様の責任でお取り扱いください。本機で撮影した映像には、車両ナンバーなどの個人情報が含まれる場合があります。
- レンズ部を手で触らないでください。触ってしまった場合は、柔らかい布で拭いてください。
- バックアップ用リチウム二次電池は、通常お客様が交換する必要はありません。データ等が壊れる恐れがありますので、故障時等の交換は、販売店か修理受付窓口へ依頼してください。
- 各ファイル保存領域の空き容量が足りなくなると、上書き保存されますのでご注意ください。残しておきたい大切なファイルがある場合は、バックアップすることをお勧めします。→「**撮影したファイルのバックアップ**」
- 動画ファイルはお手持ちのパソコンでも再生できます。ただし、パソコンの性能によっては、映像の再生がコマ落ちしたり止まったりすることがあります。
- カーナビゲーションなど GPS を使用する機器を本機の近くでお使いの場合、電波障害の影響で、一時的に GPS 衛星の電波を受信できなくなることがあります。また、周辺機器の機能にも何らかの影響を及ぼす可能性があります。
- 天候や時間帯等の周囲の状況によっては、車両前方の状況を正しく認識できない場合があります。
- LED 式信号機や道路上の街灯などを撮影すると、信号機や街灯が点滅しているように撮影されたり、ちらついたりする場合があります。また、色が識別できない場合があります。これらの場合については弊社は一切の責任を負いません。
- 本機は G センサー(加速度センサー)で衝撃(加速度)を検知して事故発生前後の映像を記録しますが、全ての状況において映像の記録を保証するものではありません。
- 購入直後など十分に保持用コンデンサに充電されていない状態で、車のエンジンをオフして本機への電源供給が止まった場合、撮影時間が短くなったり、撮影できないことがあります。
- 電源供給時には必ず付属の電源ケーブルを使用してください。

⚠ microSD カードの取り扱いに関するご注意

- 本機は、microSDHC/SDXC カード(8 GB ~ 128 GB、Class10)に対応しています。全ての microSD カードの動作を保証するものではありません。
- 当社推奨 microSD カード：パイオニア製 microSDHC/SDXC メモリーカード(別売品)。詳細は以下より製品ページをご覧ください。<https://jpn.pioneer/ja/carrozzeria/>
- microSD カードは本機でフォーマットしてご使用ください。また、カード内にパソコンなどで他のデータを入れずにご使用ください。
- microSD カードは定期的にフォーマットしてください。
- microSD カードへのアクセス中は、microSD カードを抜かないでください。ファイルやカード自体が破損する恐れがあります。
- microSD カードは消耗品です。microSD カードは普通に使用していても正常に書き込みや消去などの動作をしなくなる場合があります。
- **microSD カードの寿命は保証対象外となります。**
- microSD カードは消耗品です。定期的に新品への交換を推奨いたします。長期間使用すると、不良セクタの多発などにより正常に記録できなくなる場合や、microSD カードがエラーになり使用できなくなる場合があります。
- microSD カードの消耗に起因する故障または損傷については、弊社は一切の責任を負いません。
- お持ちのパソコンで認識している microSD カードが、まれに本機で認識しない場合があります。この場合、microSD カードの不具合によっては、本機のフォーマット機能でフォーマットすることにより認識する場合があります→「**ドライブレコーダーの設定**」の「**設定できる機能**」-「**設定/システム**」の「**SD カードフォーマット**」。ただし、フォーマットした場合は、microSD カードに記録された保護ファイルも含めた全てのファイルが消失します。フォーマットの際は、必ず microSD カードファイルのバックアップを作成してから行ってください。
- フォーマット作業による microSD カードの不具合修復を弊社が保証するものではありません。また、本作業により microSD カードのファイル消失並びに、その他損害が発生した場合は、弊社として責任を負えません。お客様の判断・責任のもとでフォーマット作業は実行してください。

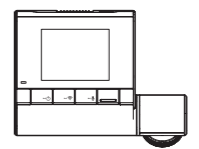
⚠ 電波に関するご注意

- 本機は電波法に基づく省電力データシステム無線局設備として、技術基準適合証明を受けています。従って、本機を使用するときには無線局の免許は必要ありません。また、本機は日本国内のみで使用できます。
- 下記の事項を行うと法律に罰せられることがあります。
 - ・分解 / 改造する。
 - ・本機に貼ってある証明シールをはがす。
- 本機の無線機能は、2.4 GHz の周波数帯の電波を利用しています。この周波数帯の電波はいろいろな機器(電子レンジ、無線 LAN 機器など)が使用しているため、電波の干渉により無線機能の音声が届かなくなったり聞こえにくくなる場合があります。また、他の機器の動作や性能に影響を及ぼすことがあります。本機は電波干渉の影響を受けにくい方式ですが、下記の内容に注意してください。
 - ・無線 LAN 機器を利用した AV 機器、防犯機器などを使用している環境で、本機の無線機能を使うと、音声が届かなくなったり、無線 LAN 機器の動作に大きな影響を与えることがあります。
 - その他、下記の機器でも、2.4 GHz の周波数帯の電波を使用しているものがあります。これらの機器の周辺では、声が届かなくなったり、使えなくなることがあります。また、相手の機器の動作に影響を与えることがあります。
 - ・火災報知器、ワイヤレス AV 機器(テレビ、ビデオ、コンピューターなど)
 - ・工場や倉庫などの物流管理システム、鉄道車両や緊急車両の識別システム
 - ・マイクロ波治療器、ゲーム機のワイヤレスコントローラー
 - ・自動ドア、万引き防止システム(書店、CD ショップなど)
 - ・自動制御機器・その他、Bluetooth® 対応機器や VICS (道路交通網システム)
 - ・アマチュア無線局など

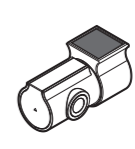


- ① 2.4 GHz 帯を使用する無線設備を表します。
- ② DS-SS 方式および OFDM 方式を表します。
- ③ 想定される干渉距離(約 40 m)を表します。

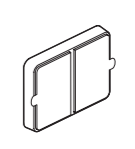
付属品を確認する



ドライブレコーダー 本体 × 1



2nd カメラ × 1



取付ブラケット × 1



電源ケーブル(5 m) × 1



2nd カメラ 接続ケーブル (3 m) × 1*



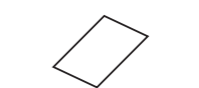
2nd カメラ 接続ケーブル (6 m) × 1*



microSDHC カード (16 GB) × 1



取扱説明書 × 1



保証書 × 1



クリーナークロス × 1

* 2nd カメラ接続ケーブルは接続した状態で同梱されています。

別売の偏光フィルター「AD-PLF1」を取り付けることでフロントガラスへのダッシュボードの映り込みや反射光を抑え、コントラストの高い映像が得られます。

取り付けの前に知ってほしいこと

警告

- エアバッグ装着車に取り付ける場合は、エアバッグのカバー部分および作動時の妨げになるような場所には絶対に取り付けないでください。エアバッグが正常に動作しなかったり、動作したエアバッグで本機が飛ばされ、事故やけがの原因となります。

注意

- エアバッグ装着車に取り付ける場合は、車両メーカーに作業上の注意事項を確認してから作業を行ってください。エアバッグが誤動作する原因となることがあります。
- 必ず付属の部品を指定どおりに使用してください。指定以外の部品を使用すると故障する恐れがあります。
- 必ず車両の備品および運転に支障のない場所に本機を取り付けてください。

取り付け上のご注意

- 保安基準*に適合させるため、本書をよくお読みになり、正しく取り付けてください。
*保安基準とは、道路運送車両の保安基準第29条及び細目を定める告示第195条をいいます。
- ドライブレコーダー本体および2ndカメラは、ガラス取り付け専用です。ガラス以外や車室外には取り付けしないでください。
- ドライブレコーダー本体をフロントガラスに取り付けるときは、必ずフロントガラスの指定の位置・寸法内に取り付けてください。
- 2ndカメラをリアガラスに取り付けるときは、以下の点にご注意ください。
ー熱線がある場合は、熱線を避けて取り付け。

ーリアワイパーがある場合は、ワイパーの拭き取り範囲に入るように取り付け（雨天時の水滴、ガラスの汚れにより映像が見づらくなるため）。

ーハイマウントストップランプからできるだけ離して取り付け。

- 車種によって、指定の位置や寸法内に取り付けられないことがあります。詳しくは、販売店にご相談ください。
- ドライブレコーダー本体および2ndカメラを塞いだり、レンズを汚したりしないでください。
- レンズの近くに反射物を置かないでください。
- ドライブレコーダー本体および2ndカメラは、落としたり、レンズ部分には触れないよう、取り扱いには十分ご注意ください。
- 自動車のガラスにコーティング剤または特殊加工が施されている場合は、録画品質に影響が出る可能性があります。
- 自動車のガラスに特殊加工が施されている場合は、GPSが受信できない可能性があります。本機の画面に表示されるGPS受信状態表示をご確認の上、GPSが受信できない場合は取り付ける事ができません。→「ドライブレコーダーの使いかた」の「ステータス表示について」
- 作業場所は、空気中にゴミ、ホコリなどが無い場所を選んでください。
- 気温が低いときやガラスがくもっている場合は、接着力の低下を防ぐため、車内ヒーターやデフロスタースイッチをONにしてウィンドウを暖めておいてください。

両面テープは、一度貼り付けた後に剥がすと粘着力が弱くなるため貼り直しできません。必ずドライブレコーダー本体および2ndカメラを仮留めし、ケーブルの引き回しなどを十分に検討してから貼り付けてください。

取り付けのポイント

取り付け、固定する前に

- まず仮接続を行い、本機が正常に動作することを確認してから、取り付けを行ってください。正常に動作しない場合は、接続に間違いがないか、もう一度チェックしてください。

両面テープを貼り付ける前に

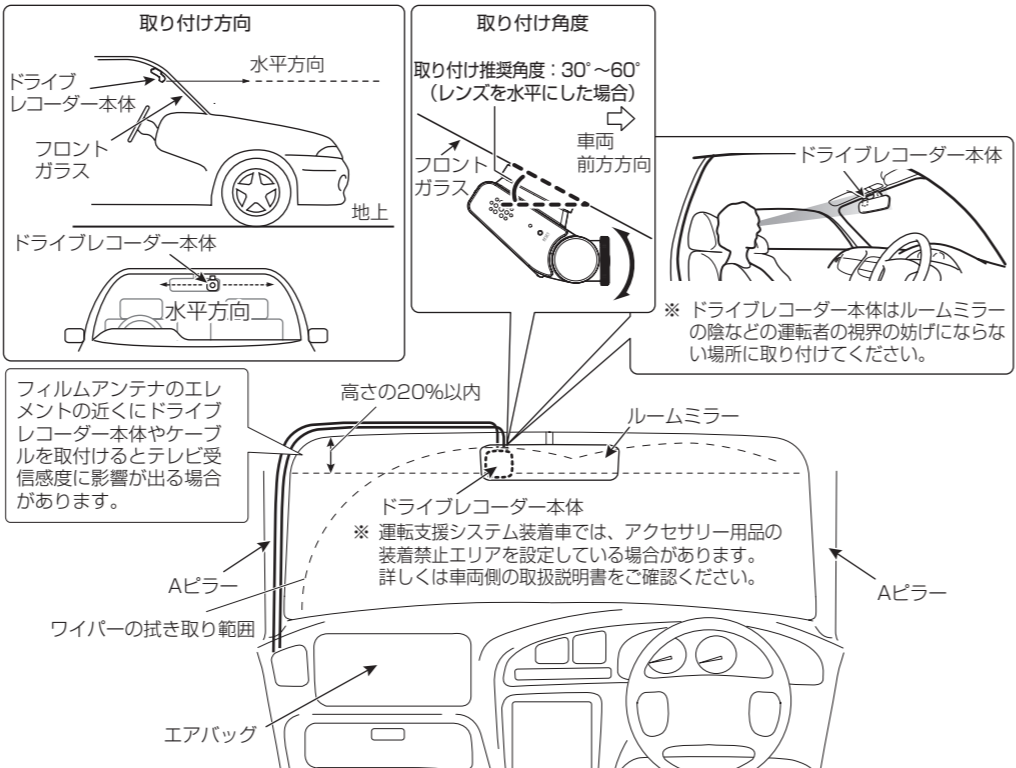
- 両面テープを貼り付けるところは、汚れをよく拭きとってください。

取り付け

フロントガラス取り付け指定位置

ドライブレコーダー本体をフロントガラスに取り付ける場合、以下の条件を全て満たす車両および位置に取り付けてください。

- ドライブレコーダーの貼り付け面がフロントガラスの高さの上縁から20%以内の位置（ウエザ・ストリップ、モール等と重なる部分およびマスキングが施されている部分を除く実長の20%以内の範囲）あるいは、運転席から見てルームミラーの陰になる位置
- ドライブレコーダー本体のレンズ部分がワイパーの拭き取り範囲内に入る位置
- ドライブレコーダー本体のレンズ部分がサンシェードやクロセラライン・クロセラパターンにかからない位置
- 車検ステッカーと重ならない位置
- ドライブレコーダー本体が前方および左右に対して水平方向を向く位置
- 電源ケーブルや2ndカメラ接続ケーブルが無理なく引き回せる位置



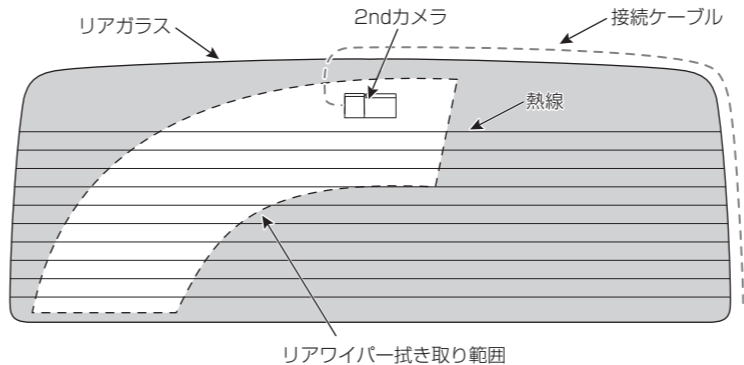
必ずお守りください

フロントガラスに取り付ける場合は、運転に安全な視野を確保し、性能を十分に発揮させるために、必ず「フロントガラス取り付け指定位置」に取り付けてください。指定位置以外に取り付けると道路運送車両の保安基準に適合せず、車検に通らなかったり、整備不良の対象となります。

リアガラス取り付け推奨位置

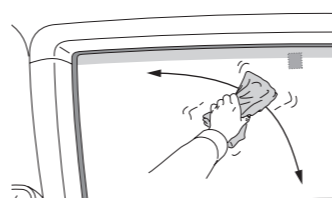
2ndカメラをリアガラスに取り付ける場合、以下の条件を全て満たす車両および位置への取り付けを推奨します。

- 2ndカメラのレンズ部分がワイパーの拭き取り範囲内に入る位置
- 2ndカメラが後方および左右に対して水平方向を向く位置
- 2ndカメラのレンズ部分および両面テープが熱線と重ならない位置
- 2ndカメラの接続ケーブルが無理なく引き回せる位置

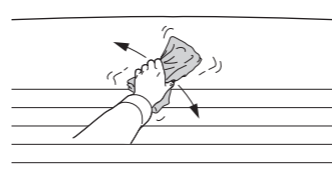


1 クリーナークロスで取り付け部分の汚れ・油などを取り除きます

■ フロントガラス

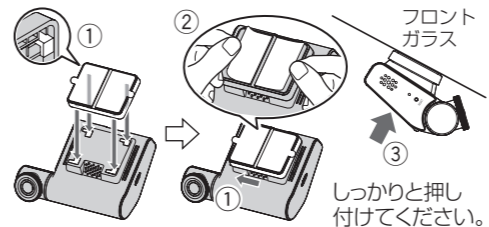


■ リアガラス



2 ドライブレコーダー本体を取り付けます

- ①：取付ブラケットをドライブレコーダー本体にセットします。
- ②：取付ブラケットの両面テープはくり紙をはがします。
- ③：フロントガラスの指定位置に取り付けます。



注意

- ガラスの表面が乾いてから貼ってください。
- ドライブレコーダー本体は液晶モニターの周囲をしっかりと押し付けてください。その後、ドライブレコーダー本体を取付ブラケットから取り外し、取付ブラケットを直接押し付けることで、しっかりと取り付けることができます。
- 液晶モニターの表面は絶対に押さないでください。
- 2ndカメラは本体をしっかりと押し付けてください。
- 取付ブラケットの両面テープは非常に強い粘着力を持っており、一度貼り付けると貼り直しは困難なため、十分ご注意ください。
- 粘着テープの取付強度を確保するため、取付後24時間以上放置してから使用してください。

3 2ndカメラを取り付けます

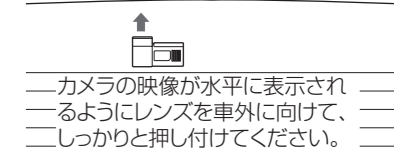
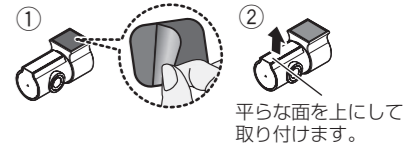
- ①：2ndカメラの両面テープはくり紙をはがします。
- ②：図で示す平らな部分(側面の△が上を向く位置)を上にして、2ndカメラの映像が水平に表示されるようにリアガラスの指定位置に取り付けます。

メモ

- 専用アプリを利用して2ndカメラの映像を水平に表示して取り付けるサポートができます。→「専用アプリについて」

注意

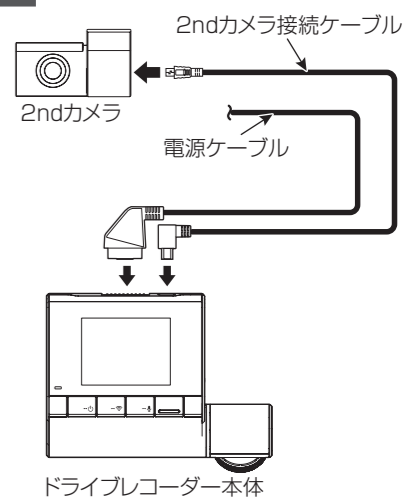
- 2ndカメラの映像が水平に表示されていないと後方車両を正しく検知しない場合があります。



はがれないようにしっかり取り付ける

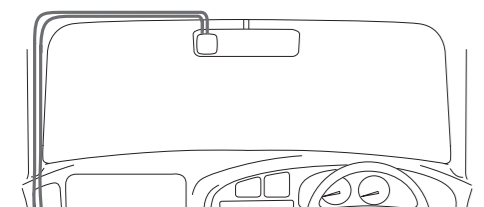
- 正しく取り付けられていないと、走行中にはがれて事故の原因になります。ときどき点検してください。

4 ドライブレコーダー本体と電源ケーブル、2ndカメラ接続ケーブルを接続します

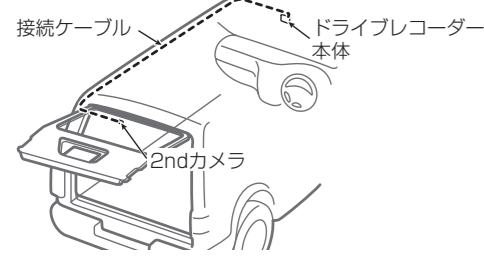


取り付け

5 電源ケーブル、2ndカメラ接続ケーブルを助手席側に引き回します



■ 2ndカメラの配線例

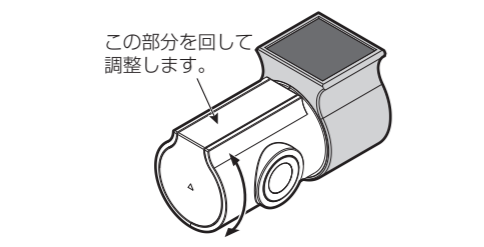
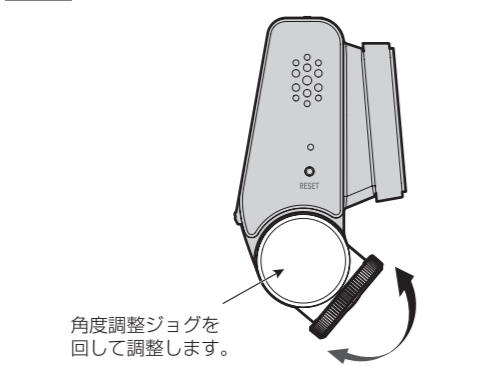


6 電源ケーブルを接続します

→「電源ケーブルの接続」

7 車のエンジンをかけて撮影画面を表示します

8 車外または車内の映像が適切に表示されるようにレンズの角度を調整します



運転中はドライブレコーダー本体のレンズを車外に向けてください。レンズの角度を車外から車内または車内から車外に動かすと、本機は再起動を行います。ドライブレコーダー本体のカメラ映像と2ndカメラの映像を切り換えるには、 ボタンを押します。→「ファンクションボタンについて」

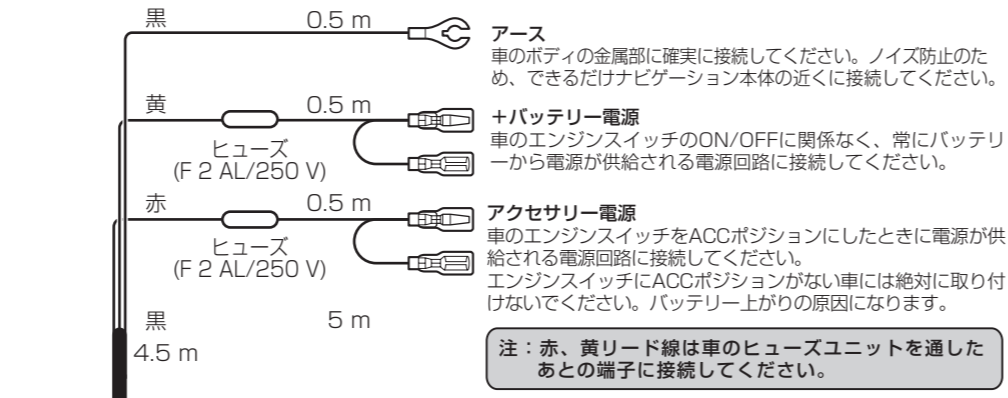
■ メモ

- お買い上げ時は、保護フィルムが貼られています。はがして使用してください。

電源ケーブルの接続

—電源ケーブルの接続は、必ず車のバッテリーの⊖端子を外してから接続してください—

電源ケーブルを使用して車両から直接電源を取り出すことで、駐車監視機能（24時間 365日監視可能なセキュリティモード）をお使いいただけます。



アース
車のボディの金属部に確実に接続してください。ノイズ防止のため、できるだけナビゲーション本体の近くに接続してください。

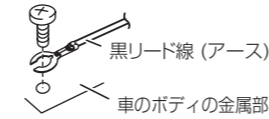
+バッテリー電源
車のエンジンスイッチのON/OFFに関係なく、常にバッテリーから電源が供給される電源回路に接続してください。

アクセサリ電源
車のエンジンスイッチをACCポジションにしたときに電源が供給される電源回路に接続してください。エンジンスイッチにACCポジションがない車には絶対に取り付けられないでください。バッテリー上がりの原因になります。

注：赤、黄リード線は車のヒューズユニットを通したあとの端子に接続してください。

⚠ 接続上のご注意

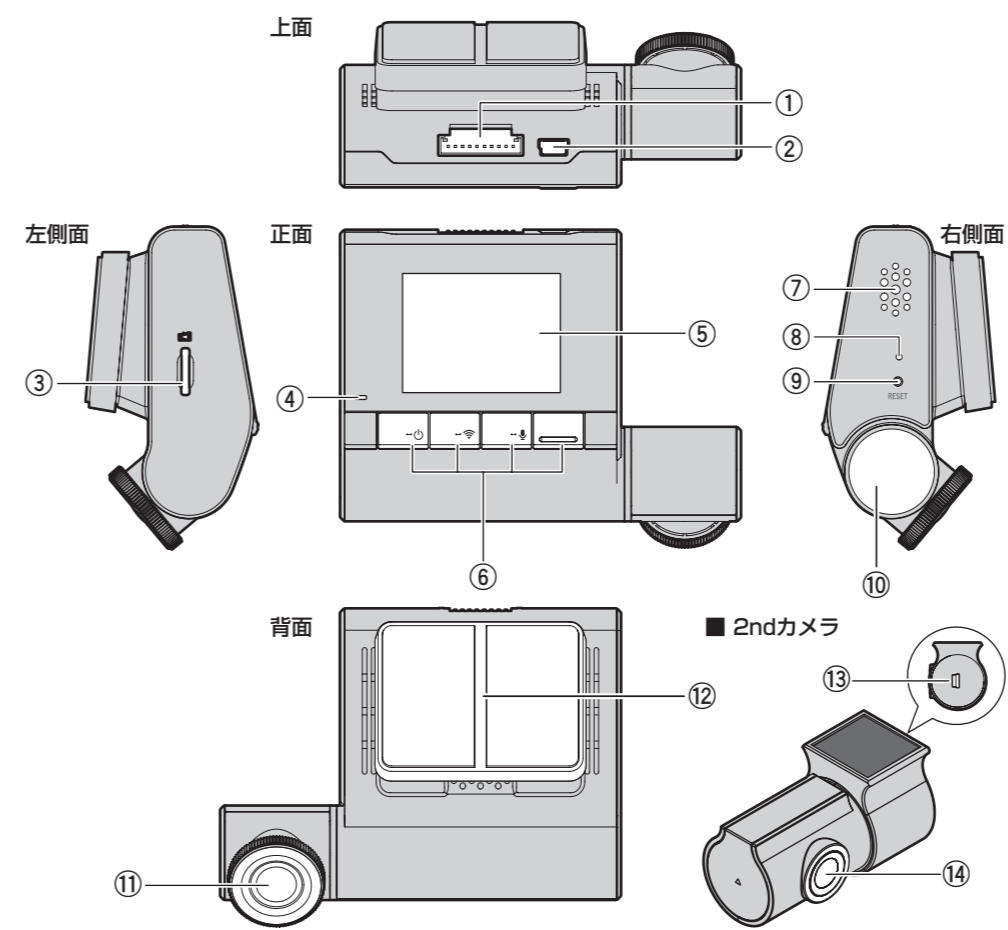
- 製品の発煙・故障を防ぐために、本機の黒リード線（アース）を必ず最初に車のボディの金属部に確実に接続してください。黒リード線（アース）は、パワーアンプなどの消費電流が大きい製品のアースとは別々に取り付けてください。まとめて取り付けると、ネジが緩んだり外れたりしたとき、製品の発煙・故障の原因となる恐れがあります。



- 製品の故障・誤動作を防ぐために、本機の黄リード線（+バッテリー電源）を必ず赤リード線（アクセサリ電源）と別の常にバッテリーから電源が供給される電源回路に接続してください。

各部の名称

■ ドライブレコーダー本体



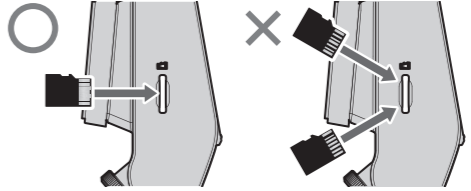
- ① 電源ポート
電源ケーブルを接続します。
- ② 2ndカメラ接続端子
2ndカメラ接続ケーブルを使って2ndカメラの接続端子（⑬）と接続します。
- ③ microSDカードスロット
- ④ システムインジケーター
- ⑤ 液晶モニター
- ⑥ ファンクションボタン
- ⑦ スピーカー
- ⑧ マイク
- ⑨ リセットボタン
ボールペンの先などで押すと、本機をリセットできます。
- ⑩ 角度調整ジョグ
回して、レンズの角度を調整できます。
- ⑪ レンズ
- ⑫ 取付ブラケット
- ⑬ 接続端子
- ⑭ レンズ

microSD カードの入れかた・取り出しかた

microSDカードを出し入れする際は、必ず本機の電源をオフにしてください。→「 手で電源をオン/オフする」

microSD カードを挿入する

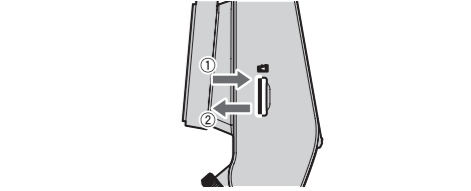
microSDカードの端を持ち、ラベル面を本機の背面側に向けてゆっくりと「カチッ」と音がするまでmicroSDカードスロットに挿入します。



⚠ microSDカードを斜めに挿入しないでください。破損の原因になります。

microSD カードを取り出す

microSDカードの上端をゆっくりと「カチッ」と音がするまで内側へ押し（①）、ロックを解除してから取り出します（②）。



⚠ microSDカードは書き込み後は熱を有しているため、取扱には注意してください。

撮影したファイルのバックアップ

各ファイル保存領域の空き容量が少ない場合は古いファイルから削除されます。残しておきたい大切なファイルがある場合は、次の方法でバックアップすることをお勧めします。

■ メモ

- 事前に予備のmicroSDカードを用意してください。

1 microSDカードを差し換えます

安全な場所に停車し、本機の電源を必ずオフにしてからmicroSDカードを取り出して、予備のmicroSDカードと差し換えてください。

■ メモ

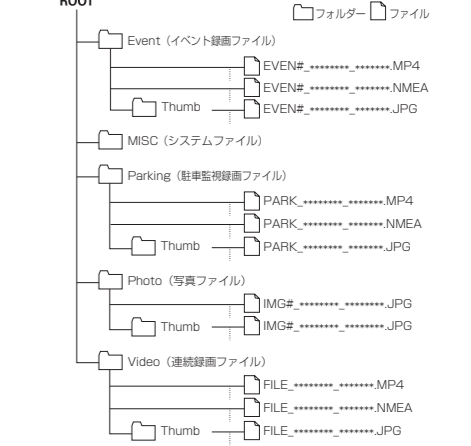
- microSDカード差し換え時は、あらかじめフォーマットしてからお使いください。

2 パソコンにファイルをコピーまたは移動します

必要に応じて市販のSDカードアダプターを使用し、microSDカードをパソコンへ挿入します。バックアップしたい録画または写真ファイルをパソコン内の適切な場所へコピーまたは移動してください。

フォルダーやファイルの構成について

microSDカード内のフォルダーやファイルの構成は下図の通りです。



■ メモ

- #には、本体カメラ「M」または2ndカメラ「E」を示す符号が自動的に付与されます。
- *****には、年月日_時分秒が自動的に付与されます。

ドライブレコーダーの使いかた






必ず安全な場所に停車してパーキングブレーキをかけてから操作してください。

本機の電源について

本機は、車のエンジンをオン（ACC ON）にすると起動し、自動的に録画を開始します。（連続録画機能）
→「ドライブレコーダーの使いかた」の「連続録画機能について」
車のエンジンをオン（ACC ON）にした時点でドライブレコーダー本体のカメラが内側（車内）を向いていると、メッセージと警告音が鳴ります。

■手動で電源をオン／オフする

本機の電源を手動でオン／オフすることができます。


撮影画面でファンクションボタンの  を3秒以上押すと電源オフ確認画面が表示されます。ファンクションボタンの  /  を押して [はい] を選び、 を押すと電源がオフになります。もう一度ファンクションボタンの  を3秒以上押すと電源がオンになります。

システムインジケータ表示について

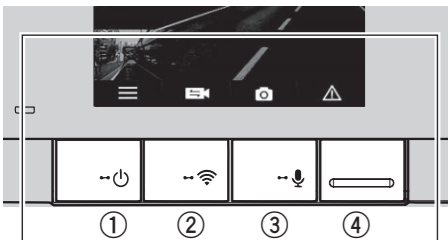
本機の動作状態をシステムインジケータで表します。

システムインジケータ	メニュー表示中／再生中	連続録画中	イベント録画中	駐車監視中	エラー時 (microSD カード未挿入を含む)
緑 点灯	—	○	—	○	—
赤 点灯	—	—	○	—	—
赤 点滅	—	—	—	—	○

ファンクションボタンについて

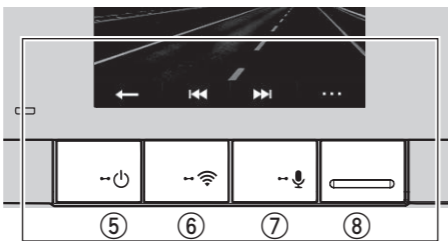
ファンクションボタンの機能は画面下部に表示されるアイコンで表示されます。各ボタンの機能は表示されている画面により異なります。（アイコンが表示されない画面もあります。）再生画面や MENU 画面では、ファンクションボタンの  を押すと一つ前の画面に戻ります。

■録画中



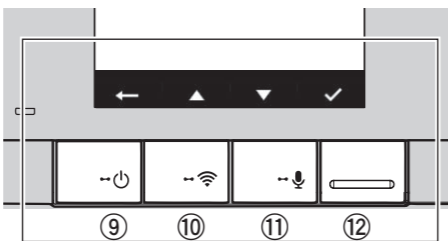
- ① メインメニュー表示
- ② カメラ映像の切り換え
長く押すと、Wi-Fi のオン / オフ
- ③ 写真撮影
長く押すと、マイクのオン / オフ
- ④ 手動イベント録画

■再生中



- ⑤ 戻る
- ⑥ 前ファイルへ戻る
- ⑦ 次ファイルへ進む
- ⑧ 再生 / 停止、削除

■MENU 画面表示中



- ⑨ 戻る
- ⑩ 上へ *
長く押すと、Wi-Fi のオン / オフ
- ⑪ 下へ *
長く押すと、マイクのオン / オフ
- ⑫ 決定

※ 音量や感度の MENU 画面を表示している場合は、音量や感度を高くするまたは低くします。

ステータス表示について

本機の動作状態を表示します。



- ① 録画中表示
- ② 撮影経過時間表示
- ③ イベント録画状態表示*¹
- ④ 駐車監視表示
- ⑤ 音声記録表示*²
- ⑥ Wi-Fi 接続状態表示*³
- ⑦ GPS 受信状態表示*⁴

※ 1 イベント録画中に手動イベント録画を行うか、振動・急ブレーキ・後方車両接近を検知してイベント録画が作動した場合は「× 2」と表示されます。

※ 2 オフに設定されていると赤い「\」が表示されます。

※ 3 接続中は緑色に表示され、接続していないときは白色で表示されます。オフに設定されていると赤い「×」が表示されます。

※ 4 受信中は緑色に表示され、受信できないときは白色で表示されます。駐車監視中は設定がオフになるため赤い「×」が表示されます。

連続録画機能について

本機が起動すると自動的に録画を開始します。録画した映像は設定時間単位（工場出荷時は3分間）で1ファイルとして microSD カードに保存され、microSD カードの容量が無くなると、古いファイルから上書きされます。

■メモ

- 連続録画時間は変更することができます。
→「ドライブレコーダーの設定」の「設定できる機能」-「**■設定**」-「連続録画」-「録画ファイル時間」
- 下記の場合に連続録画を停止します。
— MENU 画面を表示している場合
— 電源供給が停止された場合
— 駐車監視機能が起動した場合
- 録画時間は状況によって変更になる場合があります。

イベント録画機能について

■衝撃を検知して自動で撮影

他の車との接触事故が発生した場合など、本機が衝撃を検知した時点から前20秒間、後20秒間が自動的にイベント録画ファイルとして保存されます。→「**■イベント録画のタイミングと保存先**」

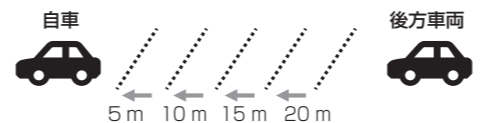
■急ブレーキを検知して自動で撮影

無理に割り込まれたときや前方車両の減速など、本機が急ブレーキを検知した時点から前20秒間、後20秒間が自動的にイベント録画ファイルとして保存されます。→「**■イベント録画のタイミングと保存先**」

■後方車両の接近を検知して自動で撮影

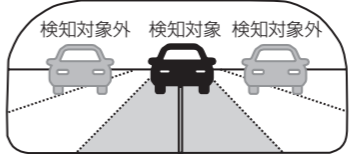
一定以上の速度で運転中に同一走行レーンの後方車両が車間距離をつめて一定時間保っている場合や接近してくる場合など、本機の2ndカメラが後方車両の接近を検知した時点から前20秒間、後20秒間が自動的にイベント録画ファイルとして保存されます。

→「**■イベント録画のタイミングと保存先**」

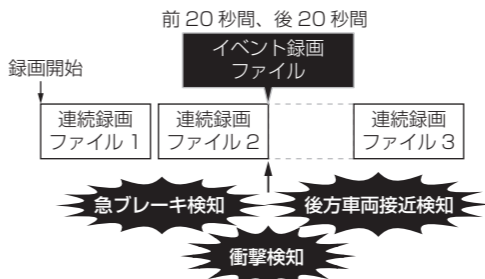


検知範囲

2nd カメラから直線上の後続車両を検知します。




■イベント録画のタイミングと保存先



- ※ 連続録画ファイルは「Video」フォルダーに保存されます。
- ※ イベント録画ファイルは「Event」フォルダーに保存されます。

■手動で撮影

連続録画中にファンクションボタンの  を押すと、押した時点から前20秒間、後20秒間がイベント録画ファイルとして保存されます。

■メモ

- 衝撃、急ブレーキ、後方車両接近を検知する感度を調節できます。
→「ドライブレコーダーの設定」の「設定できる機能」-「**■設定**」-「連続録画」-「振動検知感度」、「急ブレーキ検知感度設定」、「後方車両接近感度設定」
- イベント録画中に衝撃、急ブレーキ、後方車両接近を検知した場合はイベント録画終了後に再度イベント録画を開始します。
- 録画時間は状況によって変更になる場合があります。
- 後方車両の接近を検知すると、メッセージを表示します。
- 急ブレーキを一度検知すると、約2秒経過するまで次の急ブレーキ検知を行いません。
- 後方車両の接近を検知するには、2ndカメラ画像に対して「キャリブレーション」の調整と「取付高さ設定」の設定が必要です。
→「ドライブレコーダーの設定」の「設定できる機能」-「**■設定**」-「連続録画」-「キャリブレーション」、「取付高さ設定」
- 以下のような状況では、後方車両の接近を正しく検知できない可能性があります。
— 「キャリブレーション」が正しく調整されていない、または「キャリブレーション」の調整可能な範囲外に地平線が写るように2ndカメラが取り付けられている場合
→「ドライブレコーダーの設定」の「設定できる機能」-「**■設定**」-「連続録画」-「キャリブレーション」
— 「取付高さ設定」が正しく設定されていない場合
→「ドライブレコーダーの設定」の「設定できる機能」-「**■設定**」-「連続録画」-「取付高さ設定」
— 強い光や陰、暗い所、車のヘッドライトの加減により、2ndカメラが後方車両を正しく認識できない場合
— 天候（雨、雪、濃霧など）や車の走行環境（道路の起伏が激しい場合など）により、2ndカメラが後方車両を正しく検知できない場合
— トンネルの中など GPS を受信していない場合
— 後方車両が二輪車の場合

駐車監視機能について

本機への電源供給が止まる（車のエンジンをオフ）と、一定時間後に駐車監視機能が動作します。最大動作時間は約40分です。駐車監視機能動作中に振動による車の動きを本機が検知すると、検知した時点から前20秒間、後20秒間が駐車監視ファイルとして保存され、次回起動時にお知らせメッセージが表示されます。

■メモ

- 駐車監視機能はオン / オフの設定ができます。また、駐車監視機能の動作時間を設定できます。
→「ドライブレコーダーの設定」の「設定できる機能」-「**■設定**」-「駐車監視」-「駐車監視時間」
- 振動を検知する感度を調節できます。
→「ドライブレコーダーの設定」の「設定できる機能」-「**■設定**」-「駐車監視」-「振動検知感度」
- 本機への電源供給が止まってから約3分間および電源供給を開始する前の約3分間に検知された振動については、お知らせメッセージ表示の対象外となります。
- 録画時間は状況によって変更になる場合があります。

■セキュリティモードについて

セキュリティモードがONの場合は、設定した駐車監視時間が経過すると自動で24時間365日駐車監視を行うセキュリティモードが作動します。セキュリティモード作動中に振動による車の動きを本機が検知すると、検知した時点から1分間が駐車監視ファイルとして保存され、次回起動時にお知らせメッセージが表示されます。

■メモ

- セキュリティモードはオン / オフの設定ができます。
→「ドライブレコーダーの設定」の「設定できる機能」-「**■設定**」-「駐車監視」-「セキュリティモード」
- セキュリティモード時は、低消費電力モードで動作するためバッテリー上がりの心配を軽減することができます。
- セキュリティモードは、衝撃検知後3秒以内に録画を開始します。
- 車のエンジンをオン（ACC ON）にする前の約3分間に検知された振動については、お知らせメッセージ表示の対象外となります。

ドライブレコーダーの使いかた

つづき

- セキュリティモードは衝撃を検知してドライブレコーダー本体を起動し動作する機能のため、機械式の立体駐車場や振動の多い場所で使用するとバッテリーの減りが早まる可能性があります。そのような場所に駐車する際には設定をオフにしてご使用ください。
- 録画時間は状況によって変更になる場合があります。
- セキュリティモード中にバッテリー電圧が設定した監視電圧付近になると、バッテリー保護のため録画時間が1分間より短くなる場合があります。

■ 監視電圧機能について

駐車監視機能をお使いになる場合は、事前に「監視電圧」の設定をしてください。車両のバッテリー電圧が設定した電圧以下になったときに自動的にバッテリー上がりを防止する機能です。
→「[ドライブレコーダーの設定](#)」の「[設定できる機能](#)」
→「[設定](#)」→「[駐車監視](#)」→「[監視電圧](#)」

「駐車監視時間」の設定が OFF 以外および「セキュリティモード」の設定が ON の場合

「監視電圧」で設定した電圧値 +0.1V を下回ると、駐車監視機能を停止しセキュリティモードが作動します。セキュリティモード中に「監視電圧」で設定した電圧値を下回ると本機の動作を停止（電源をオフ）します。

「駐車監視時間」の設定が OFF 以外および「セキュリティモード」の設定が OFF の場合

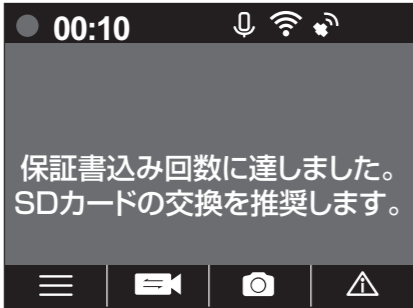
設定した電圧値 +0.1V を下回ると本機の動作を停止（電源をオフ）します。

■ メモ

- 市販のテスターなどでエンジン停止状態の車のバッテリー電圧を測定し、その値と同等または少し低い値を設定値から選んでください。
- 既にバッテリーが弱って電圧値が低下している場合があります。また、エンジン停止直後などは高めの電圧値が測定される場合があります。測定した電圧が正常値とは限りませんのでご注意ください。
- テスターを準備できない場合などは、カーディーラーや専門業者にご相談ください。
- 使用環境や車両の状況により検知電圧に誤差が生じる場合があります。

SD カード寿命検知機能について

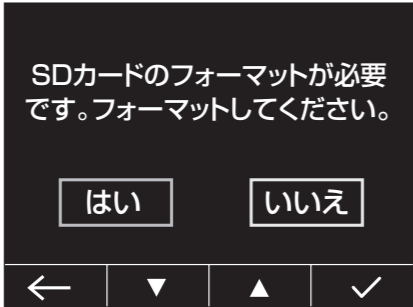
パイオニア製 microSD カードを装着している場合、一定の保証書き込み回数に達すると、本機からブザー音が「ピーピーピー」と鳴り、microSD カードの交換を推奨する旨のメッセージが画面に表示されます。



メッセージは、microSD カードの交換が完了するまで一定間隔で表示されます。
→「[microSD カードの入れかた・取り出しかた](#)」

SD カードフォーマット警告機能について

microSD カードの異常を検知すると、本機からブザー音が「ピーピーピー」と鳴り、microSD カードのフォーマットを促すメッセージが画面に表示されます。



ファンクションボタンの / を押して [はい] または [いいえ] を選び、 を押します。

はい：

フォーマットをするかどうかを再確認する画面が表示されます。

[はい] を選ぶとフォーマットが開始されます。

[いいえ] を選ぶと再起動を促す画面が表示されず。[はい] を選んで再起動してください。

いいえ：

再起動を促す画面が表示されます。[はい] を選んで再起動してください。

写真撮影機能について

連続録画中またはイベント録画中にファンクションボタンの を押すと、写真が撮れます。

撮影したファイルを再生する

撮影した動画ファイルの再生や写真ファイルの表示ができます。

1 ファンクションボタンの を押してメインメニューを開きます

以降表示される各画面において、約 30 秒間何も操作が行われなかった場合は、自動的に録画中画面に戻ります。

2 ファンクションボタンの / を押して [ファイル] を選び、 を押します



3 ファンクションボタンの / を押してフォルダーを選び、 を押します

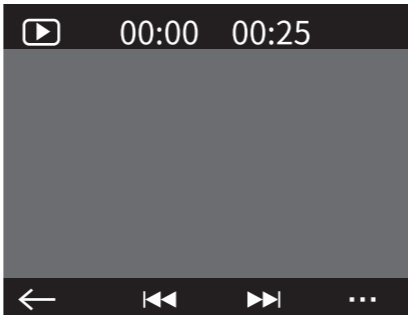


選んだフォルダー内のファイルをサムネイル表示します。

4 ファンクションボタンの / を押してファイルを選び、 を押します



選んだファイルを再生します。



■ メモ

- 手順 2～4 の画面(再生中画面を除く)でファンクションボタンの を押すと、直前の画面に戻ります。

ドライブレコーダーの設定

必ず安全な場所に停車してパーキングブレーキをかけてから操作してください。

本機に関する設定が行えます。また、設定内容を工場出荷時の状態に戻すことができます。この他、microSD カードのフォーマットや本機のバージョン情報を確認することもできます。
MENU 画面表示中は、連続録画機能が停止しますのでご注意ください。

1 ファンクションボタンの を押してメインメニューを開きます

以降表示される各画面において、約 30 秒間何も操作が行われなかった場合は、自動的に録画中画面に戻ります。

2 ファンクションボタンの / を押して [設定] または [Wi-Fi] を選び、 を押します

[設定] を選んだ場合を例に説明します。



3 ファンクションボタンの / を押して設定分類を選び、 を押します



4 ファンクションボタンの / を押して設定項目を選び、 を押します



5 ファンクションボタンの / を押して設定値を選び、 を押します



設定が完了し、前画面に戻ります。

■ メモ

- 手順 2～4 の画面でファンクションボタンの を押すと、直前の画面に戻ります。

設定できる機能

■ 設定

太字：工場出荷時の設定値です。

設定分類	設定項目	設定内容	設定値
連続録画	録画ファイル時間	連続録画機能の 1 ファイルあたりの録画時間を設定できます。	[1分]/[3分]/[5分]
	画質	動画撮影時の画質を設定できます。*1	[1280 x 720p]/[1920 x 1080p]
	WDR (Wide Dynamic Range)	明暗の差が大きい状況などで、自動で調整を行う機能の設定ができます。*1	[ON]/[OFF]
	露出補正	動画撮影時の露出を設定できます。*1	[- 1.0]/[- 0.7]/[- 0.3]/[0]/[+ 0.3]/[+ 0.7]/[+ 1.0]
	振動検知感度	振動や衝撃を検知する感度を設定できます。大きい数字にすると感度が高くなります。	[1] ~ [6] [4]
	急ブレーキ検知感度設定	急ブレーキを検知する感度を設定できます。	[標準]/[低]/[OFF]
	キャリブレーション	2nd カメラ画像に対して撮影範囲の上下左右を均等に調整する設定ができます。*2 →「 後方車両の接近を検知するために撮影範囲の誤差を補正する 」	中央
取付高さ設定	地面から 2nd カメラのレンズまでの高さを設定できます。*2	[50 cm] ~ [200 cm] [150 cm]	
後方車両接近感度設定	後方車両を検知する感度を設定できます。	[高]/[標準]/[OFF]	
駐車監視	駐車監視時間	駐車監視機能の動作時間を設定できます。OFF に設定することもできます。 →「 駐車監視機能について 」	[10分]/[30分]/[OFF]
	振動検知感度	振動や衝撃を検知する感度を設定できます。	[1] ~ [6] [4]
	LED インジケーター	駐車監視機能動作時に LED インジケーターを点灯させる／させないを設定できます。	[ON]/[OFF]
	セキュリティモード	セキュリティモードを使う／使わないを設定できます。 →「 セキュリティモードについて 」	[ON]/[OFF]
	監視電圧	車両のバッテリー電圧が設定した電圧以下になったときに自動的に本機の動作を停止（電源をオフ）する設定ができます。	[11.6V]/[11.8V]/[12.0V]/[12.2V]

*1 本体カメラのみ設定ができます。2nd カメラの設定はできません。

*2 後方車両の接近を正しく検知するために適切に設定してください。

ドライブレコーダーの設定

つづき

設定分類	設定項目	設定内容	設定値
システム	GPS 日時連動*1	タイムゾーンが設定できます。	[GMT-12:00]~ [GMT+12:00] [GMT+09:00]
	手動日時設定	時刻を手動で設定できます。	—
	システム音量	操作音および再生音量の設定ができます。OFF に設定することもできます。	[OFF]/[1]~[5] [3]
	マイクミュート	動画撮影中に本機周辺の音声も記録する／しないを設定できます。	[ON]/[OFF]
	SD カード領域	SD カード領域を変更できます。	[74%、15%、10%、1%]/ [54%、15%、30%、1%]
	操作音	操作音を鳴らす／鳴らさないを設定できます。	[ON]/[OFF]
	モニター表示設定*2	スリープに入る時間を設定できます。設定メニューを表示しているときは、本設定に関わらずスリープはしません。	[常時 ON]/ [10 秒後 OFF]/ [1 分後 OFF]/ [3 分後 OFF]
	言語	画面に表示する言語を設定できます。	[日本語]/[英語]
	SD カードフォーマット	microSD カード内のすべてのファイルを削除できます。*3	—
	工場出荷状態に戻す	設定を工場出荷時の状態に戻すことができます。	—
バージョン	本機のファームウェアのバージョン情報を確認できます。	—	

※ 1 設定を変更した場合は車のエンジンをオフ (ACC OFF) 後、再度エンジンをオン (ACC ON) にした時点で変更した設定が反映されます。

※ 2 駐車監視機能 / セキュリティモード動作中の場合は、本設定に関わらず 10 秒後オフとなります。

※ 3 microSD カードに何らかの問題がある場合、警告音と共に「SD カードエラー」等の警告が表示され、録画が停止します。

Wi-Fi

設定分類	設定項目	設定内容	工場出荷時の設定値
—	—	本機と Wi-Fi テザリング対応端末を接続するかどうか設定できます。	ON (接続可)

撮影画面でファンクションボタンの  を長く押し、Wi-Fi のオン / オフを切り換えることもできます。

後方車両の接近を検知するために撮影範囲の誤差を補正する

撮影範囲の上下左右を均等に調整する設定ができます。(キャリブレーション)

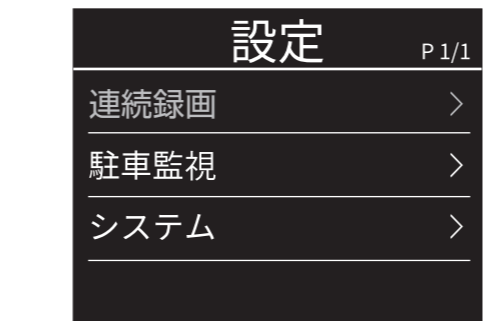
1 ファンクションボタンの を押してメインメニューを開きます

以降表示される各画面において、約 30 秒間何も操作が行われなかった場合は、自動的に録画中画面に戻ります。

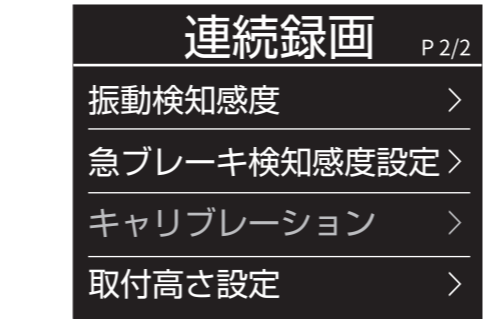
2 ファンクションボタンの / を押して [設定] を選び、 を押します



3 ファンクションボタンの / を押して [連続録画] を選び、 を押します



4 ファンクションボタンの / を押して [キャリブレーション] を選び、 を押します



5 ファンクションボタンの / を押してカーソルを地平線の位置に合わせて、 を押します



6 ファンクションボタンの / を押して車線の中央の位置に合わせて、 を押します



設定が完了し、前画面に戻ります。

メモ

- 2nd カメラの撮影範囲の誤差補正 (キャリブレーション) は専用アプリを利用して調整・設定することを推奨します。
→「専用アプリについて」
- キャリブレーションを適切に行っていないと、後方車両を検知する機能が正しく動作しない可能性があります。

録画時間および枚数の目安

下表は、「SD カード領域」の設定に応じた各動画の録画時間と写真枚数の目安であり、ご使用の microSD カードや被写体、撮影条件等により変動します。

「SD カード領域」の設定は以下のように表しています。

例：[74% 15% 10% 1%]

メモリーカード容量に対し、連続録画時間が 74%、イベント録画時間が 15%、駐車監視録画時間が 10%、写真枚数が 1% となります。

16 GB の場合の録画時間および写真枚数の目安

SD カード領域	解像度	連続録画	イベント録画	駐車監視録画	写真枚数
[54% 15% 30% 1%]	1080p	約 38 分	約 10 分	約 21 分	約 400 枚
	720p	約 44 分	約 12 分	約 24 分	約 400 枚
[74% 15% 10% 1%]	1080p	約 52 分	約 10 分	約 7 分	約 400 枚
	720p	約 1 時間	約 12 分	約 8 分	約 400 枚

128 GB の場合の録画時間および写真枚数の目安

SD カード領域	解像度	連続録画	イベント録画	駐車監視録画	写真枚数
[54% 15% 30% 1%]	1080p	約 5 時間 9 分	約 1 時間 26 分	約 2 時間 52 分	約 400 枚
	720p	約 5 時間 58 分	約 1 時間 39 分	約 3 時間 18 分	約 400 枚
[74% 15% 10% 1%]	1080p	約 7 時間 4 分	約 1 時間 26 分	約 57 分	約 400 枚
	720p	約 8 時間 10 分	約 1 時間 39 分	約 1 時間 6 分	約 400 枚

注意

- 「SD カード領域」の設定を変更すると microSD カードに録画されているファイルが消去されます。「SD カード領域」の設定を変更するときは、必ず microSD カードファイルのバックアップを作成してから行ってください。

専用アプリについて


専用アプリ「ドライブレコーダーインターフェース」を使って、iPhone またはスマートフォン (Android ™) の画面で本機の撮影映像を確認したり、各種設定を行ったりすることができます。

- ご利用には、あらかじめ本機と iPhone/ スマートフォン (Android ™) を Wi-Fi 接続する必要があります。
 - ① 本機の Wi-Fi 機能をオンに設定します。→「[ドライブレコーダーの設定](#)」
 - ② iPhone またはスマートフォン (Android ™) から専用アプリを起動します。
 - ③ iPhone またはスマートフォン (Android ™) を操作して、Wi-Fi 接続先として本機を選びます。本機の SSID 名称 (アクセスポイント名称) やパスワードは、Wi-Fi 設定画面で確認・変更できます。SSID 名称やパスワードは初期値から変更することをお勧めします。ただし、工場出荷時の状態に戻した場合、SSID 名称やパスワードは初期値に戻ります。
- ドライブレコーダーと同時に接続できる iPhone/ スマートフォン (Android ™) は 1 台のみとなります。2 台目を接続した場合は、1 台目の端末との接続が切断します。
- Wi-Fi 接続中は本機から操作することができません。Wi-Fi 接続中にファンクションボタンを操作すると、Wi-Fi 接続を切断するかメッセージが表示されます。[はい] を選択すると Wi-Fi 接続が切断され、本機での操作が可能になります。
- 専用アプリ「ドライブレコーダーインターフェース」のダウンロードやインストール、ご使用方法については下記をご確認ください。
iPhone : < https://jpn.pioneer/ja/carrozzeria/app/dr_interface_apple.php >



スマートフォン (Android ™) : < https://jpn.pioneer/ja/carrozzeria/app/dr_interface_google.php >




- ご使用方法については専用アプリ「ドライブレコーダーインターフェース」の画面下のメニューで ⇒ [使い方] をご確認ください。

商標・著作権など

- microSDHC、microSDXC ロゴは SD-3C LLC の商標です。
- Wi-Fi CERTIFIED™ロゴは、Wi-Fi Alliance® の認証マークです。



- Android は Google Inc. の商標です。
- iPhone は Apple Inc. の商標です。iPhone の商標は、アイホン株式会社のライセンスにもとづき使用されています。
- 本機は、電波法に基づく工事設計認証を取得しています。 回 210-178262

GPS について

- GPS 衛星 (人工衛星) から位置測定用の電波を受信して、現在地を測位するシステムが GPS (Global Positioning System : グローバルポジショニングシステム) です。
- GPS 衛星信号は、固体物質 (ガラスを除く) を通過することができません。次のような場所にいるときは、GPS 衛星の電波がさえぎられて受信できないことがあります。
トンネルの中やビルの駐車場、2 層構造の高速道路の下、高層ビルの群集地帯、密集した樹木の間

故障かな?と思ったら

修理に出す前に、下記内容をご確認ください。

症状	原因	対処
本機の表示や動作がおかしくなった。	本機のマイコンが誤動作を起こしている。	リセットボタンを押してください。 →「 各部の名称 」
	microSD カードに何らかの問題が発生している可能性があります。	microSD カードをフォーマットしてください。 →「 ドライブレコーダーの設定 」の「 設定できる機能 」-「 ■設定 」-「 システム 」-「 SD カードフォーマット 」
記録されているはずのファイルが見当たらない。	microSD カード内の保存領域が定らなくなった場合、ファイルは古いものから順に上書き保存されています。	残しておきたい大切なファイルがある場合は、バックアップすることをお勧めします。 →「 撮影したファイルのバックアップ 」
車に乗るときや降りるときに、勝手に駐車監視ファイルが作られる。	車に乗り降りする際の振動が検知されています。	検知するセンサーの感度を調整してください。 →「 ドライブレコーダーの設定 」の「 設定できる機能 」-「 ■設定 」-「 駐車監視 」-「 振動検知感度 」
駐車中に録画されたファイルに、異常のない映像が多い。	振動検知の感度が適切では無い可能性があります。	検知するセンサーの感度を調整してください。 →「 ドライブレコーダーの設定 」の「 設定できる機能 」-「 ■設定 」-「 連続録画 」-「 振動検知感度 」
駐車中に車をぶつけられたのに動画ファイルが作られていない。		音声記録の設定を再確認してください。 →「 ドライブレコーダーの設定 」の「 設定できる機能 」-「 ■設定 」-「 システム 」-「 マイクミュート 」
運転中に事故にあったが動画ファイルが作られていない。	振動検知の感度が適切では無い可能性があります。	
動画ファイルを再生しても、音声 が鳴らない。	音声録音の設定が OFF の可能性があります。	

仕様

型番	VREC-DZ800DC
記録媒体	microSDHC/microSDXC カード class10 (8 GB ~ 128 GB)
撮像素子	約 200 万画素 (車載用高感度 CMOS センサー)
記録画角	本体 : 水平 130° 垂直 68° 対角 160° 2nd カメラ : 水平 112° 垂直 58° 対角 137°
F 値	本体 : F2.0 2nd カメラ : F1.9
録画モード	1920 × 1080P / 1280 × 720P
画像補正技術	WDR 機能
GPS	搭載
Wi-Fi	搭載 (iOS/Android 専用アプリ接続用)
G センサー	3 軸 G センサー (イベント録画時 : 6 段階レベル設定可能、駐車監視時 : 6 段階レベル設定可能)
記録方式	連続録画 / イベント録画 / 手動イベント録画 / 駐車監視録画
録画ファイル構成	1 分 / 3 分 / 5 分
ディスプレイ	2 インチ液晶
音声録音	ON/OFF 可能
フレームレート	27.5 fps
画像圧縮方式	動画 : MP4 (H.264)、写真 : JPG
記録映像再生方法	iOS/Android 専用アプリ、PC 専用オリジナルビューアーなど
電源電圧	DC 12 V (専用電源ケーブル付属)
消費電力	約 5 W
動作温度	-10 ℃ ~ +60 ℃
外形寸法	本体 : 106.1 mm × 78 mm × 46.7 mm (幅 × 高さ × 奥行) 2nd カメラ : 63.2 mm × 37.1 mm × 31.6 mm (幅 × 高さ × 奥行)
本体質量	本体 : 145 g (ブラケットなどを除く) 2nd カメラ : 35 g
取付推奨角度	30° ~ 60°